

一般教育科目の履修方法

一般教育科目は、「MGUスタンダード科目」「リベラルアーツ基幹科目」「キャリア科目」「外国語科目」「体育科目」から編成されている。全学部・学科を対象にして開講しているものが多いが、一部の学科を対象に開講しているものもある。また、クラス編成も学部・学科別のものから全学部・学科混在のものまで様々である。

なお、「MGUスタンダード科目」および「キャリア科目」は本学の「MGUスタンダード」【MGUS】という理念に基づいて置かれているが、これについては学修計画（P26）を参照すること。

以下、科目ごとの「開講の目的」と「登録の方法」を示すが、所属学部・学科ごとの必要科目・単位数が異なるので、各学部・学科の「履修方法」の項目を確認して登録すること。なお、受講に関する問い合わせは、一般教育部副手（講義館 C303）を通じて、一般教育部教務センター担当教員に申し出ること。

1 MGUスタンダード科目

「MGUスタンダード科目」には、「MGUスタンダード」のなかでも、本学学生として誰もが標準的に身につけておくべき素養・能力を養うための科目が置かれており、原則としてすべて全学必修科目となっている。

その構成は「建学の精神」（P10）で謳われる事柄の全般に及び、キリスト教精神を理解する科目、女性としての生き方を考える科目、すべての学問探究のための基礎となる科目、グローバル社会に対応するための科目がある。具体的な科目名および履修方法は以下のとおりである。

◆キリスト教学・キリスト教と現代社会【MGUS】

1. 開講の目的

「キリスト教学」では聖書学的知見に基づいてキリスト教に関する入門的知識を、「キリスト教と現代社会」では社会の具体的な諸問題をキリスト教的な視点で観察する方法をそれぞれ学ぶことにより、人格の陶冶をめざす。

2. 登録の方法

所属学部・学科のクラスを確認し、登録する。

◆基礎演習【MGUS】

1. 開講の目的

大学で学ぶことの意味を考え、大学で学ぶための基本的姿勢を身につける。また、資料の調べ方や読み方、報告の仕方やレポートの書き方、ディスカッションの仕方など、大学で学ぶための基礎的スキルを身につける。

2. 登録の方法

各クラスの受講者氏名一覧を演習当日の午前 11 時までに、人文館 5 階ロビーに掲示する。UNIPA には自動的に登録されるので、掲示と UNIPA でクラスを確認する。

◆日本語演習【MGUS】

1. 開講の目的

大学や社会において必要な日本語運用能力を身につける。特に、添削等による実践的訓練を通して、論理的な文章を適切に書く能力を取得する。

2. 登録の方法

各クラスの受講者氏名一覧を演習当日の午前 11 時までに、人文館 5 階ロビーに掲示する。UNIPA には自動的に登録されるので、掲示と UNIPA でクラスを確認する。

◆女性と人権【MGUS】

1. 開講の目的

女性教育における本学の歴史と位置、女性と性と人権をめぐる現状を学ぶことにより、自己理解を深め、尊敬をもって生きる力、自分の全生涯を主体的に生きるために必要とされる基礎的な力を養う。

2. 登録の方法

所属学部・学科のクラスを確認し、登録する。

◆音楽の世界【MGUS】

1. 開講の目的

「音楽の宮学」としての歴史と伝統を持つ本学独自の教養として、合唱を通して建学の精神を理解し、自然な共同体意識を醸成し、本学学生としての誇りを育む。

2. 登録の方法

所属学部・学科のクラスを確認し、登録する。

◆自然科学入門【MGUS】

1. 開講の目的

現代生活を支えている自然科学の成果について学ぶ。身近な事象を題材に、自然科学の方法や考え方を学び、自然科学とは何かを理解する。

2. 登録の方法

所属学部・学科のクラスを確認し、登録する。

◆生活と福祉【MGUS】

1. 開講の目的

キリスト教主義教育の精神に基づいて、福祉の心を育て、福祉社会の構築に貢献できる人材を育てる。

2. 登録の方法

所属学部・学科のクラスを確認し、登録する。

◆英語コミュニケーション I・II【MGUS】

1. 開講の目的

グローバル化する世界の中で、様々な文化的背景をもった人々とコミュニケーションをとるために、英語でやりとりを行う基礎力を養う。

2. 登録の方法

I・IIともクラス分けがされているため、各クラスの受講者氏名一覧を前期の講義前日の午後1時まで、人文館5階ロビーに掲示する。UNIPAには自動的に登録されるので、掲示とUNIPAでクラスを確認する。

- *前期に単位を取得できなかった学生は、1年次に履修すべき他の科目と重ならない限り、再履修用に開講されている「英語コミュニケーションⅠ」を後期に登録することができる。
- *後期に単位を取得できなかった学生は、履修すべき他の科目と重ならない限り、再履修用に開講されている「英語コミュニケーションⅡ」を次年度の前期に登録することができる。

◆英語リテラシーⅠ・Ⅱ【MGUS】

1. 開講の目的

グローバル化する世界の中で、必要な情報を適切に入手し、活用することができるように、英語で読み書きを行う能力を身につける。

2. 登録の方法

I・IIともクラス分けがされているため、各クラスの受講者氏名一覧を前期の講義前日の午後1時まで、人文館5階ロビーに掲示する。UNIPAには自動的に登録されるので、掲示とUNIPAでクラスを確認する。

- *前期に単位を取得できなかった学生は、2年次に履修すべき他の科目と重ならない限り、再履修用に開講されている「英語リテラシーⅠ」を後期に登録することができる。
- *後期に単位を取得できなかった学生は、履修すべき他の科目と重ならない限り、再履修用に開講されている「英語リテラシーⅡ」を次年度の前期に登録することができる。

2 リベラルアーツ基幹科目

リベラルアーツとは、人間が主体的に生きるために必要とされる知識や手法のことを指し、本学のカリキュラムでは、一般教育科目・専門教育科目を含めてリベラルアーツ教育を重視するものが少なくない。

そのなかにあって、この「リベラルアーツ基幹科目」には、各学科の専門性に関わらず、より普遍的な意義をもつ講義科目が置かれており、それらを1年次後期から4年次前期にかけて継続的に学修するカリキュラムとなっている。これは、専門教育科目の学修を進めていくなかでも、常に広い視野を持ち続ける人間を育てるという、本学の理念に基づく。

本学の「リベラルアーツ基幹科目」は、学びの意義をより明確化するべく、全科目に通底する「三本の柱」を意識して構成している。即ち、「問う」「生きる」「創る」である。学問はただ学問のためにあるのではなく、学生のこうした根源的な行動に何かしらのヒントを与えるものであることを理解されたい。

なお、リベラルアーツ基幹科目の多くは、同系統の科目のなかから、学生が自身の関心に基づいて具体的な分野を選択して履修する形式をとっている。各授業のシラバスを閲覧する際には、上の「三本の柱」を選択のための手掛か

りにすることもできるだろう。

◆リベラルアーツ基礎A

1. 開講の目的

情報通信技術（ICT）に関連する分野や、「データサイエンス」とよばれる分野について幅広く学び、これらの技術が今後の私たちの生活や社会にどのように関わっていくのかを考察する。

2. 登録の方法

所属学部・学科のクラスを確認し、登録する。

◆リベラルアーツ基礎B

1. 開講の目的

所属する学科の専門分野とは異なる分野の入門学習を通して、学問のあり方を相対化し、人文・社会科学の基礎を学ぶとともに、一般教養の陶冶をめざす。

2. 登録の方法

「リベラルアーツ基礎B」のシラバスを参照し、興味のあるテーマを1つ選択し、登録する。なお、希望者の多いコースは抽選により人数を制限することがある。

◆リベラルアーツ基礎C

1. 開講の目的

自然科学の個別テーマについて、これまでに何が明らかになったのか、いま何が面白いのか、これから解くべき問題は何かを学び、自然科学の考え方やその本質についての理解を深める。

2. 登録の方法

「リベラルアーツ基礎C」のシラバスを参照し、興味のあるテーマを1つ選択し、登録する。なお、希望者の多いコースは抽選により人数を制限することがある。

◆リベラルアーツ基礎D

1. 開講の目的

所属する学科の専門分野とは異なる分野の入門学習を通して、学問のあり方を相対化し、一般教養の陶冶をめざす。

2. 登録の方法

「リベラルアーツ基礎D」のシラバスを参照し、興味のあるテーマを1つ選択し、登録する。なお、希望者が多いコースは抽選により人数を制限することがある。

◆リベラルアーツ総合A・B

1. 開講の目的

各コースを2つの小テーマに分け、それぞれ異なる視点や方法から講義を行い、各コースの問題を広い視野に立って総合的にとらえていく態度を養い、現代の諸学問と文化に対する展望を獲得する。

2. 登録の方法

「リベラルアーツ総合A・B」のシラバスを参照し、興味のあるコースを第二希望まで選択し、UNIPAのアンケートから回答する。なお、希望者が多いコースは抽

選により人数を制限することがある。

UNIPAには自動的に登録されるので、UNIPAでコースを確認する。

3. 単位認定に関する諸注意

- ・コースで開講する2つの小テーマの講義すべてを受講すること。なお、決定したコースを途中で変更することは認められない。
- ・小テーマを総括として、小テスト(原則として各小テーマの最終日に1回)を実施する。
- ・小テストとは別に、コース全体を通しての理解を問う期末テストを実施する。事情により期末テストを受験できなかったものは、定められた期日までに教務課に申し出て、追試験の手続きを行うこと。
- ・期末テストを受験しない場合は不合格となる。また、期末テストのみを受験しても単位は認定されないので注意すること。

◆リベラルアーツスタディーズA・B

1. 開講の目的

専門研究に取り組むなかで、別の分野からの視点を取り入れることで、新しい発想を得る。また、学問を相対化し、多分野間の関連を見つけ出すことにより、学問に対する理解を深める。

2. 登録の方法

「リベラルアーツスタディーズA・B」のシラバスを参照し、興味のあるテーマを選択し、登録する。

3 キャリア科目

「キャリア科目」は、男女共同参画社会を主体的に生きる本学学生が卒業後に社会で活躍するための基盤をつくるものとして、「MGUスタンダード」の理念に基づいて置かれている科目である。

具体的な科目名および履修方法は以下のとおりである。

◆ライフワーク論【MGUS】

1. 開講の目的

社会、労働、生活、文化など多様な領域における女性の現状を学ぶことにより、大学で学んだ専門性をいかし、社会や地域にさまざまな立場から貢献するための基盤となる力を養う。

2. 登録の方法

学芸学部5学科で必修となる。所属学科のクラスを確認し、登録する。

◆キャリア形成論【MGUS】

1. 開講の目的

女性と労働をめぐる国内外の現状、法制度の現状を学ぶことにより、大学で学んだ専門性をいかし、社会や職場、地域の意思決定の場で活躍できる基礎的な力を養うとともに、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の両立)をもとに長期的な視座にたったキャリア形成を主体的に実現するための心構えを学ぶ。

2. 登録の方法

所属学部・学科のクラスを確認し、登録する。

◆日本国憲法【MGUS】

1. 開講の目的

一般教養として憲法学の基礎を講義する。「民主主義社会の良識ある市民」の育成を旨すとともに、そのために必要な政治のルールや人権の尊重を学ぶ。

2. 登録の方法

所属学部・学科のクラスを確認し、登録する。教職科目として3年次に開講されているので、希望者は忘れずに登録すること。

◆情報処理【MGUS】

1. 開講の目的

パソコンの実際的な操作方法を学ぶ。日本語ワードプロセッサや表計算ソフトを利用しながら、レポートや論文を作成する方法、数値データを処理する方法などの基礎能力を身につける。

2. 登録の方法

所属学部・学科のクラスを確認し、登録する。なお、他の授業と異なり、機器を使うこと、その台数に制限があるために、安易に登録して途中で放棄しないように注意すること。

4 外国語科目

◆スキルアップ英語

1. 開講の目的

既習の授業で身につけた英語力を基にして、様々な領域[listening, reading, speaking, writing, TOEIC対策など]で英語の技能を強化し、各自の学習目的に応じて運用能力を高める。

2. 登録の方法

「スキルアップ英語(1)(2)」は学期ごとに複数のクラスが開講されているので、シラバスを参照し興味のある領域を選択して登録する。各自の計画に合わせて2-4年次まで継続的に学習することができる。

ただし、「スキルアップ英語(1)(2)」を履修するにあたっては、「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」を履修済みでなければならない。

なお、学生がTOEICを自主的に受験し所定のスコアを取得した場合、スコア認定証を添えて申請することにより、下表のとおり受験年度の「スキルアップ英語(1)(2)、(3)(4)、(5)(6)」に振替えて単位を取得することができる。(※申請の仕方など詳細は、一般教育部副手室で確認すること)

・申請期間：1月予定

	TOEICスコア		
	500以上	600以上	700以上
認定される科目名(単位数)	スキルアップ英語(1)(2) (2単位)	スキルアップ英語(3)(4) (2単位)	スキルアップ英語(5)(6) (2単位)

*例えば、TOEIC スコア 650 を取得した場合は、『スキルアップ英語(1)~(4)』に振り替えて一度に4単位を取得することができる。

◆外国語コミュニケーションⅠ・Ⅱ

◆外国語リテラシーⅠ・Ⅱ

1. 開講の目的

グローバル化する世界の中で、大学あるいは社会において有益となる外国語能力を身につける目的で、コミュニケーション能力を養う「外国語コミュニケーション」、読み書きを行う能力を養う「外国語リテラシー」をそれぞれ開講する。

2. 登録の方法

所属学科で開講されている外国語のなかから選択し、クラスを確認し、登録する。ただし、「中国語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」ならびに「中国語リテラシーⅠ・Ⅱ」の履修を希望する場合は、以下の手順によりクラス分けを行う。

- ①ガイダンスで配布された封筒のなかに「中国語コミュニケーション」「中国語リテラシー」の「志望カード」が入っているので、必要事項を記入しカードに記載してある期日までに、人文館5階ロビーに設置してある回収箱に投函する。
- ②各クラスの受講者氏名一覧を前期の講義初回の前日の午後1時までに、人文館5階ロビーに掲示するので、その結果に基づいて登録する。
なお、「外国語コミュニケーションⅡ」を履修するためには「外国語コミュニケーションⅠ」を、「外国語リテラシーⅡ」を履修するためには「外国語リテラシーⅠ」を、それぞれ履修済みでなければならない。

◆スキルアップ外国語

1. 開講の目的

英語以外の言語について、それぞれの言語を2年次以降も継続して学習することで、語学力を高め、グローバル化する社会への適応能力を磨く。

2. 登録の方法

「スキルアップ外国語」を履修するにあたっては、当該外国語の「外国語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」か「外国語リテラシーⅠ・Ⅱ」のどちらかを履修済みでなければならない。履修に際して、所属学部・学科で複数の時間帯に開講されている場合には、いずれか（あるいはすべて）のクラスを自由に選択できる。

◆実践外国語Ⅰ・Ⅱ（フランス語と中国語のみ）

1. 開講の目的

フランス語と中国語について、2年次以降、運用能力を集中的かつ総合的に高め、当該言語の使い手としての自覚を育むとともに、グローバル化する社会への適応能力を磨く。

副専攻（外国語プログラム）履修のための必修科目である。

2. 登録の方法

「実践外国語Ⅰ・Ⅱ」については、当該外国語の「外

国語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」、「外国語リテラシーⅠ・Ⅱ」、「スキルアップ外国語」等において優秀な成績を修めた学生が履修できるものとする。その履修資格を有する学生については、各年度のガイダンス期間中に人文館5階ロビーに掲示するので、その結果に基づいて登録を行うこと。

◆外国語科目の単位認定について

海外の大学や語学学校などで受けた授業に関して、学習内容と時間に応じて外国語科目の単位を取得することができる。（※希望者は出発前に必ず一般教育部副手室に申し出ること）

5 体育科目

◆体育講義

1. 開講の目的

心身ともに健康で活力ある生活の基盤を作るために、自己の心身やスポーツに関する科学的知識を理解し、豊かな人間性や幅広い教養を育成する。

2. 登録の方法

所属学部・学科のクラスを確認し、登録する。

◆体育実技

1. 開講の目的

スポーツと健康の関わりを言語的に理解するだけでなく、スポーツの実践を通して理解することで、健康的な生活を営む技術を育むとともに、能動的で社会性豊かな人間性を育てる。

2. 登録の方法

所属学部・学科のクラスを確認し、登録する。

◆スポーツ

1. 開講の目的

種々のエクササイズを通じて、心身ともに良好な状態で日常生活を送る能力を養う。

2. 登録の方法

時間割を確認し、登録する。

◆シーズンスポーツ

シーズンスポーツは、学外において短期集中的に実施される体育科目を指す。主として前期はキャンプ、後期はスキー・スノーボードを開講するが、それ以外の種目についても開講する場合がある。

前期：キャンプ

1. 開講の目的

キャンプを通じて、アウトドアスポーツが自己の心身に及ぼす影響を学習する。また、キャンプに必要な技術、安全に実施する知識、生涯スポーツとして継続して実践できる能力を習得する。

2. 登録の方法

登録前にシラバスの授業内容を確認すること。

- ①実施要領 7月中旬

- ②実施期間 8月下旬から9月上旬
 - ③用具 キャンプ用具は実習先でレンタルする。着替え等は各自用意する。
 - ④諸経費 20,000円～25,000円（施設利用料、バス代、食材費など）
- ※参加人数が一定数に満たない場合や、悪天候などの不測の事態で実習を中止することがある。中止の場合、返金される実習費は振込手数料が自己負担となる。

後期：スキー・スノーボード

1. 開講の目的

スキー・スノーボードを通じて自己の心身と運動の関わりについて学習する。スキー・スノーボードで発生する障害・事故との関連を把握し、安全に実施する態度を育てる。

2. 登録の方法

登録前にシラバスの授業内容を確認すること。

- ①実施要領 12月中旬頃、実施要項配布の掲示をする。
- ②実施期間 2月上～中旬
- ③用具 各自用意すること。用具のレンタルを希望する場合には、別途料金がかかる。
- ④諸経費 40,000円～50,000円程度（宿泊代、バス代、リフト代など）

※実習の中止について

参加人数が一定数に満たない場合や雪不足などの不測の事態で実習を中止することがある。実習中止の場合、返金される実習費は振込手数料が自己負担となる。

6 再度履修科目について

次の科目は、一度単位を取得しても、再び履修すること（三度以上の履修を含む）が認められている。ただし、同一教員の同一科目名の授業を再度履修することはできない。

- ・リベラルアーツ基幹科目

次の外国語科目と体育科目については同一教員の同一科目の授業を再度履修することができる。

- ・外国語科目（スキルアップ英語、スキルアップ外国語、実践外国語）
- ・体育科目（スポーツ、シーズンスポーツ）

シーズンスポーツについては同一教員の同一科目の再度履修は1度までとする。